平成 22 年度 三条市子ども・若者総合サポート会議
障がい支援部会第 1 回実務者会議 議事録

日 時 平成 22 年 7 月 21 日 (水) 午前 10 時から 12 時

会 場 三条市役所 栄庁舎 3 階 大会議室

出席者 別紙名簿のとおり

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ 子育て支援課長
- 3 各機関及び事務局自己紹介
- 4 議 事
 - (1) 三条市子ども・若者総合サポートシステムについて
 - (2) 関係機関・組織における取組について
 - (3) 講演会「発達応援セミナー」のテーマについて (資料 1・5・6)
 - (4) 子育てサポートファイル「すまいるファイル」について (資料 1・2・7)
- 5 その他
- 6 閉 会

議事要旨

- 1 開会 学校教育課 統括指導主事 中村 義則 (以下進行)
- 2 挨拶 子育て支援課長 久住 とも子
- 3 各機関及び事務局自己紹介
- 4 議事

(1) 三条市子ども・若者総合サポートシステムについて

○事務局説明

資料 1 「平成 21 年度 三条市子ども・若者総合サポートシステム活動実績」

資料 2 「平成 22 年度 三条市子ども・若者総合サポートシステム活動計画 (案)」

○質疑

(新潟県中央児童相談所)

被虐待児は法的根拠に基づき個人情報の第三者提供をして良いとなっているが、問題行動 (特に非行少年) の児童に対する個人情報の第三者提供の根拠を教えてください。

➤ (事務局)

「個人情報の保護に関する法律」のなかで虐待及び問題行動については早急に対応しなければならない案件であることから個人情報保護法の規制のなかに入らないと解釈があった。また、学校教育課と子育て支援課は同じ教育委員会内なので、法律以前の問題であり、共有しても問題ない。

子ども・若者総合サポート会議の場でどうかという点については、それぞれ要保護児童対策協議会及び子ども・若者育成支援地域協議会はそれぞれ法律の中で個人情報保護に留意しながら実施しなさいと法律にうたっているため問題ないと理解している。

(新潟県中央児童相談所)

被虐待児については実名・実住所をすべて載せて実務者会議を行なっているという

るが、非行児等についてもそれでよいか確認したい。

➤ (事務局)

マニュアル支援者用 Ver. 6 の P. 18 をご覧いただきたい。

児童虐待についてはおっしゃったとおり何の問題なく個人情報の共有が可能。

問題行動である非行・不登校については外部機関との個人情報の共有を△にしている。それぞれ機関の考え方のなかで個人情報の共有ができないという考えの外部機関もあるので実際のところ国の解釈がそうであっても共有できないという外部機関もあるので△にした。しかし、法律に基づく子ども・若者総合サポート会議の場においては法律の趣旨からいけば共有してよいということになる。

障がい、ひきこもりについては、教育委員会内部では、個人情報保護法、市の条例上共有は可能。しかし、他の課（市長部局）、外部機関との個人情報の共有については、同意書なしでは支援が不可能のため、支援していく場合は保護者の同意をいただくという考え方で進めていきたい。

この障がい支援部会については、同意書が必要である。

(三条市小学校長会)

- ・同意書の提出件数が少ないのはなぜか。
- ・代表者と実務者の選出について教えていただきたい。

➤ (事務局)

・確かに少ないと思っている。支援が途切れる、また他の支援の検討が必要な方がいる場合は、総合サポートシステムの説明をしていただき、同意書を得ていただきたいと、3月に相談の入り口である幼稚園、保育所・園、小中学校へ依頼をした。また、小学校から中学校に移行する際、配慮すべき事項が確実に伝わって、保護者も他の支援が必要ないと思っていれば同意書の提出は必要ないと考えている。

・代表者と実務者の考え方については、各組織の中でお考えいただきたいと思っている。また、今年度当初に各機関に代表者及び実務者の選出を依頼し、まとめたものがマニュアルの「構成機関・団体名簿」にあるので、そちらの名簿をご覧いただきたい。

(事務局)

不登校の同意書の提出件数が少ない件について、不登校はひきこもりになりやすく、また、義務教育が修了すると支援が途切れてしまうため同意書の提出が必要になってくる。県立高校については今年度末に私どもが訪問等をし、先生方の意識を高めていただきたいと思っている。「辞めてもうちの責任ではない」ではなく、学校とは離れるからこそ、同意書を提出すればその後の支援や相談ができるということを保護者に理解していただき、同意書の提出をお願いしたいと思っている。保護者を見守り、つなげていくというのが一番の課題と思っているのでそこを今年は力をいれたいと思っている。

(三条市手をつなぐ育成会)

個人情報の問題についてはとても取扱いが面倒だが、障がい者支援の立場では保護者と関係機関の共有情報は絶対に必要だと思う。

また、総合サポートシステムは障がい者を含め、健常者についても、保護者と必ず同意書を得て、保護者を巻き込んだ形で情報を集約し、支援をしていくことが大切だと思っている。学校、施設の相談も受け付けているので同意書の提出は絶対に必要だと思う。

保護者を巻き込んだ形で情報を集約し、支援していくのが大切だと思っている。

(2) 関係機関・組織における取組について

○各関係機関説明

資料3「平成21年度 活動実績」

資料4「平成22年度 活動計画」

(三条市小学校長会)

- ・別添資料のとおり
- ・個別指導計画の作成、個別教育支援計画の作成
- ・保幼小、小中の特別支援が必要な幼児・児童に関わる接続
- ・各専門機関との連携
- ・市単位、各中学校区単位で職員研修を積極的に行い、参加している。

(三条市中学校長会)

- ・別添資料のとおり
- ・最近の動向について、特別支援学級在籍生徒が爆発的に増えている。このサポートシステムができてから私どもが大変期待する部分は小中が終わると支援の枠が途切れてしまい、発達障がいの児が増えている現状があるにもかかわらず、次の高等部へ進んでいく受け皿が今までなかった。先ほど、ひきこもりの問題もあったが、次のステージに送る側としては、高校への情報の共有化をどうやっていくか、受験合格後に情報をあげていくかなど大事だと思っている。高校で中退していかないようにどう支援を継続していくかも大事だと思っている。

(三条市私立幼稚園連盟)

一人一人の状況を把握し、子どもの様子を確認する。また、家庭訪問、個別懇談でご家族の状況把握をしている。

(新潟県中央児童相談所)

要保護児童地域対策協議会＝三条市子ども・若者総合サポート会議への参加・助言。また、児童虐待、非行相談、障がい・性格・行動相談、知的障がい等の全般相談を行なっている。

先日、虐待、障がい、母の精神問題などがある三条市の家庭の緊急事案では、すぐに関係機関が集まり短期間で個別ケース検討会（実務者会議の下部会議）を開催し、非常に短期間で解決した事案があったため、報告させていただく。

(新潟県三条地域振興局健康福祉環境部)

平成21年度活動実績について

圏域内における相談支援事業が円滑、効率的に実施され、圏域全体の障がい者、障がい児の支援体制が整備されるように市町村域を超えた広域的な連携を図るための県央圏域障害者地域生活支援連絡調整会議を設けている。そのなかに相談支援事業部会、精神障害者退院促進支援部会の二つの部会がある。

相談支援事業部会・・・市町村や相談支援事業所における活動の報告、課題・検討等

11回開催

障害者福祉施設相談マップを作成し、関係機関に配布
相談支援専門員、市町村担当者対象に基本的なスキルを向上するために研修会を開催

精神障害者退院促進支援部会・・・ケース検討、事例検討の整理

「障がい者が地域で暮らす」をテーマに講演会を開催

平成 22 年度活動計画について

連絡調整会議は年 2 回行ない、その他は昨年同様に開催。

(三条市社会福祉協議会)

- ・別添資料のとおり
- ・子どもなんでも相談については、民生委員児童委員協議会青少年部会に委託して行なっている。

(三條市民生委員児童委員協議会)

別添資料のとおり

各地区とは、市内中学校区を指す。

子どもに関する研修会（虐待、障がい等に関する）を年 1～2 回行なっている。

(三条市私立保育園連盟連絡協議会)

- ・障がいをお持ちのお子さんについては日常生活を通して、また、おかしいなというお子さんがいた場合は市役所、関係機関と連携しながら適切に対応していくよう心がけている。
- ・月 1 回の園長会議を行い、情報交換を行ないながら共通認識を持つように心がけている。

(三条市手をつなぐ育成会)

- ・障がい児・者に対する事業としては、行政から相談支援事業を委託され行なっている。学校関係については要請があれば相談専門員を派遣し、研修会・懇談会等の活動をしている。また、児童の保護者からの相談を受けた場合は相談事業として、行政に返したりしている。
- ・施設としては、保護者との面談をしながら、放課後支援・夏休み中の障がいを持った児童の受け入れを行なっている。

(三条公共職業安定所)

昨年 10 月 7 日に障がい者就職面接会を行なった。事業所 13 社、障がい者 87 名の参加をいただいた。面接回数延 188 件。(前年 147 件) 就職の件数は 4 名 (前年 8 名) 今年度は 10 月 20 日に行なう予定である。

(公立保育所)

子育て支援課の応援をいただきながら、障がいを持つお子さん、日常生活のなかで不安を感じるお子さんなどは保健師さんに相談し、保育所訪問をしていただき、1 対 1 もしくは 1 対 3 の支援をしている。

発達障がいのお子さんが増えているので、早期発見、早期相談につなげて行きたいと思っている。

(児童館・児童クラブ)

支援が必要な児童の来館が多くなっている。勉強会、研修会を開いたり職員資質の向上に励んでいる。小学校等との情報交換をこれからも取って行きたいと思っている。

○質疑

(事務局)

- ・公共職業安定所にお聞きしたいが障がい者就職面接会の参加者 87 名とは三条市の人数

か。

- ・事業所 13 社は三条管内か。
- ・13 社はあまり多くないと思うが、どういう風に拡げていくかお聞きしたい。

➤ (三条公共職業安定所)

- ・参加者は三条管内の人数である。
- ・13 社は管内及び一部管外（新津管内）であり、県内に展開している会社である。
- ・法定雇用率を下回っている会社の訪問や、前年に参加した会社に依頼する。

(新潟県中央児童相談所)

障がい者を雇用した場合の会社側の利点を一部紹介していただきたい。

➤ (三条公共職業安定所)

ハローワークの紹介で就労すると会社に助成金が出る制度や、重度の障がい者を雇うとダブルカウント（一人であっても二人とカウントする）という制度がある。

(新潟県中央児童相談所)

なぜ質問したかということ、意外と皆さんご存知ないと思ったため。三条市は個人商店が多い町なので、ぜひそういう制度が使えればと思っている。

(三条市手をつなぐ育成会)

- ・障がい者の就労についてお聞きしたい。私どもは、就労移行事業も行なっているが、養護学校の高等部が終わり就職できない人がたくさんいる。三条市内の障がい者の就労は、製造業的なところでは昔みたいに歓迎していないと思われる。
- ・今日の新潟日報にでていたが、養護学校の高等部の枠が非常に狭まってきているが希望者は増えているという現状がある。長岡の市立養護が再来年拡大していくという情報が新聞に出ていた。
- ・ハローワークからいろいろな情報が来るが、集団面接では、健常者の目で面接をしたり、就労に結びつくのが微々たるもの。そういった状況の把握はしているか。

➤ (三条公共職業安定所)

- ・おっしゃるとおりだが、障がい者に理解を得ている会社が参加しているため、分け隔てなく面接していただいているはずだと思っている。
- ・障がい者の雇用についての求人はあまりない。1、2件あるかないかだと思う。例えば、ホームセンターの販売、積み出しである。現実には一般の求人を見て、直接会社へ問い合わせることが多い。
- ・56 人以上職員を採用している会社が雇用率算定になる。三条は中小企業（10、20 人程度）の会社が多いため、算定の対象にはならない。障がい者雇用については現実的に難しいのが現状だと思う。

(三条市手をつなぐ育成会)

- ・障がい者が就業するとジョブコーチ制度というものがある。事業のなかで定着するかどうかだが、障がい者施設からは、ジョブコーチ認定を受け、要請があれば、職業訓練センターと連携し事業所へいく。しかし、受け入れ側の企業が障がい者雇用をするとなると、そういった手間がかかると思っている。そういう問題がきちんとなくなると、障がい者雇用は、企業と支援をしている側とのアンマッチな部分がどうしてもでてくる。あるところに行ったら、ジョブコーチ制度を持っているので、「障がいを持っている人へ定期的に支援にいきます。」といっても、「うちの企業はそういうのはいりません。」といわれる。「ちょっとこの子については勤まりません。」といわれた場合は

違う事業に受け入れているが、われわれが思うのは障がい者の法律と実態がものすごく反している、障がい支援部会で、このような実態を各関係機関に聞いてもらうのも大事だと思っている。

- ・小中の特別支援学級は拡大していけるが、月ヶ岡養護学校の高等部は満杯になっているという現状がある。

(三条市私立保育園連盟連絡協議会)

障がい者を雇用していた立場で発言させていただく。

月ヶ岡養護学校を卒業された方を5年近く雇っていたが、付きっ切りで全面的な支援ができなかった。そのかたが勤めている間、ジョブコーチとして2回くらい来ていただいたが、結果的にうまく支援がなされなかったということで、本人は、仲間のところに帰りたいと今まで頑張ってきたけど疲れたとやめてしまった。サポートするシステムがしっかりしていればもっと続けられたのではないかと思う。

(三条市民生委員児童委員協議会)

三条市が障がい者雇用に対して行なっている市の取組をお聞きしたい。(通勤に関してなど。)

➤ (事務局)

通勤に対する取組、手当等は子育て支援課では把握していないが、市役所でも障がい者雇用をしている。

(三条市民生委員児童委員協議会)

会社が障がい者雇用に手をあげても、障がい者が敬遠する地域であると大変ではないかと考える。

(三条市手をつなぐ育成会)

三条市の福祉の問題(障がい者の雇用等)、仕組、また三条市の福祉はどうあるべきかという問題に対しては、市の自立支援協議会でもっと検討しなければならないと思う。

➤ (事務局)

福祉課が欠席しているが、自立支援協議会についても同じ市機関のため連携を深めていく。自立支援協議会とこの会議お互いの立ち位置を含め、重要な問題だと思っている。個に対し一貫した支援をし、就労につなげていくのが我々も目指していくところである。就労については、今後も実務者会議のテーマとして行きたい。

(三条市小学校長会)

特別支援教育の先生から、発達障がいに対して幼稚園、保育所・園などで気付きに温度差があると聞いている。小学校から中学校への接続について個別支援計画引継ぎをしっかりと行なうというのがとても大事だと思っている。学校も職員の資質の向上と障がいに対する気付き、情報の共有化を大切にしていきたいと思っている。

(3) 講演会「発達応援セミナー」のテーマについて

○事務局説明

資料1「平成21年度 三条市子ども・若者総合サポートシステム活動実績」

資料5「三条市子ども・若者総合サポートシステムの今後の進め方について」

資料6「H22年度発達応援セミナーのテーマについて」

➤ (事務局)

今年度は皆様からいただいた意見を基に開催したいと思っている。

(4) 子育てサポートファイル「すまいるファイル」について

○事務局説明

資料1「平成21年度 三条市子ども・若者総合サポートシステム活動実績」

資料2「平成22年度 三条市子ども・若者総合サポートシステム活動計画（案）」

資料7「子育てサポートファイル「すまいるファイル」に活用について」

○意見交換（すまいるファイルの活用状況、今後の活用について）

（三条市小学校長会）

資料のとおり

（三条市中学校長会）

- ・学校が一番関連深いと思うので発言させていただく。
- ・すまいるファイルについて、評価は高いと思う。
- ・昨年度、中学3年生の2人にファイルを持ってもらい、高等部に上がる際に持って行ってもらった。記入状態は確認していないが、中学校の現場としてはすまいるファイルを一つのツールとしてつないでいきたい。個別の教育支援計画は学校が携わっているので、学校現場において活用できるものと思っている。
- ・今後の活用の定着については、もう少し学校を使って介入して活用してもよいと考えている。チラシを配布し見てももらっても申込が少ない。特別支援学級に在籍する子どもが増えている中で、ファイルを持っている方についてはそのまま使い、持っていない場合は進学してきた際に持ってもらうように積極的に呼びかけたいと考えている。出生の方は全員持っているので、在籍児童生徒では持っていない人が多い。学年が上がるほど終わっていることなので書きにくくなる。でも本当は、その前の小さい頃の状況がどうだったかも聞きたい情報。発育の遅れがあったのではないかとという点は、なかなか聞きにくい。新中学1年生については全員持って行く位の感じでやっていきたい。
- ・発達障がいのある方が次の普通高校へ進学する場合においても、就労まで使えるという素晴らしいものと思っている。ファイルの内容は確かに大変細かく、母子手帳でもなかなか全ては書けないと思うが、通常の子どもであっても子どもの発達発育をこの位丁寧にみていけるとこれからの子育てにはよいと思うし、私自身もこうやって子育てできるとよかったと思う。月ヶ岡さんから、もう少しコンパクトにした形というご意見も使う側としては納得がいく。
- ・学校側でもっと使っていけるよう、市内の中学校にも伝えていきたい。積極的に定着に向けて協力をしていきたい。

（三条市私立幼稚園連盟）

活用状況についてはファイルをいただいた方がそれぞれに利用しているため、把握していない。配付状況を見ると、申込が少ないのが課題ではないかと考えている。

（三条市社会福祉協議会）

サイズの件は経緯を見守っていききたい。健診時に使用方法を保健師に説明してもらおうとよいのではないか。

（三条市私立保育園連盟連絡協議会）

支援する子どもに近年会っていないので、健常な子どもで持っている保護者に聞いたところ、「貰ったような気がする」との反応で、配付の際の説明はどうだったかについては

「説明は受けたが、よく分からなかった」ということで、がっかりした。このファイルは、どこの市町村の方にも自慢できるもので、これを活用しない手はないと思っている一人である。ただ、母親たちの実態を見た時に、配るだけではなく、心を届けることが難しいと感じる。保育園もこのことについては、身を入れて保護者と向き合っていく必要はあると感じた。ただ、中にはチラシを見て申し込みをした人もいて、伝わっている人もいと嬉しく感じた。今後は、PRしていきたい。

(三条市手をつなぐ育成会)

H22年度取組内容として、県の手をつなぐ育成会として障がいを持っている方(育成会の会員)向けのQOLノートというものを事業として、障がいを持っている保護者に向けて一生涯使えるものとして作った。すまいるファイルを三条市のものとして、PRしていきたい。作成して役割が終わった訳ではない。PDAサイクルの中で、アンケート調査を行い、保護者の反応や利用状況を見ていきたいと思っている。ぜひ、PRを兼ねて利用状況の調査を行ってほしい。

(三条公共職業安定所)

ファイルを利用していないし、持参した人も見たことがない。他は資料のとおり。

(事務局)

他市からの評判も聞いている。1月に研究会も開催する。

5 その他

マニュアル支援者用 Ver. 6について

➤ (事務局)

昨年度開催した代表者会議及び実務者会議での意見を踏まえ、修正させていただいた。変更点は、個人情報の共有の流れ、同意書の変更及び要綱の一部改正。

P. 19④「個人情報の取扱いに関する同意書」の保存について、子育て支援課で同意書の原本を保存するよう変更した。また、未成年者が成人になった時点で子育て支援課から本人に登録の確認をすることとした。

⑤支援が必要なくなった場合には、同意取消しの申し出が可能。「個人情報の取扱いに関する同意取消書(様式はP. 24)」を追加した。

P21. 23「個人情報の取扱いに関する同意書」について、今まで所属機関ごとに様式があったが、統一した。また、同意書の下部に同意する理由を記入してもらい、支援の協議の場で活用する。

P 17. 22 それぞれ記載例を追加した。

P. 34 新潟少年鑑別所が関係機関に加わったため要綱の一部改正を行った。

P 46. 47 平成 22 年度も内閣府のモデル事業を三条市で実施することになったため、まとめた。なお、研修会については検討中であるため内容は平成 21 年度のものに掲載させていただいた。

○質疑

(新潟県中央児童相談所)

児童相談所として、ファイルの活用方法を含め、支援を希望する方についてはとてもいいファイルだが、支援を受けたくない人や、こういうことを書きたくない人、書く能力がないという方もいるのを是非支援者として念頭に入れてほしい。書かない母が悪い母・保護者という風にならないようにしてほしい。